２０２６年度　第２回　豊西小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　２０２６年７月３０日（木）１３時３０分から１６時００分まで
２　開催場所　　豊西小学校　会議室
３　出席委員　　松島　好則、田中　孝、藤田　善博、下村　由紀子、鈴木　茉美、
　　渥美　麻美、
４　欠席委員　　川口　裕之、伊藤　太郎、田口　信吾
５　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　川﨑　美香（PTA 会長代理）
６　学　　校　　長瀬　千晶(校長)、鈴木　睦二（教頭)、川合　幸恵（教務主任)、
７　傍聴者　　なし
８　会議録作成者　教頭　鈴木　睦二
９　議長の選出
　司会の教頭（鈴木）から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長（松島）を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10　協議事項
　（１）教職員と学校運営協議会委員との懇談
　（２）懇談を受けて課題を精査し、解決策を探る

11　会議記録
　司会の教頭（鈴木）から、委員総数９人のうち６人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
(1) 教職員と学校運営協議会委員との懇談
　【テーマ 1】:「こんな学校になるといいな」グループ別協議の報告(学校・児童・地域の現状と課題)各グループ(A～E)より、本校の成果・課題・改善案について協議結果の報告が行われた。
〇学校の強み・成果
- 教職員の人間関係とチーム力：職員同士の仲が非常に良く、風通しの良い明るい雰囲気。保護者や地域からも教員の仲の良さが評価されている。
- 児童の様子：素直で優しく、元気な児童が多い。
- 地域との連携・協力体制：
　登下校の見守り、運動会(スポフェス)の片付け、授業支援(家庭科・生活科)など多大な協力を得ている。
　自然豊かで、地域全体が学校に温かい理解を示している。

〇学校施設・環境面の課題と要望(全グループ共通)
- 空調(エアコン)設置：体育館、会議室、配膳室、理科準備室、更衣室等へのエアコン設置要望(配膳室や準備室の過酷な室温環境の改善)。
- 校舎・渡り廊下の老朽化・・・北校舎と南校舎の渡り廊下に壁がなく、雨天時に児童や給食配

膳が濡れる。

- 建てつけの悪さ、施錠難など老朽化に伴う防犯上の不安。内線電話が各階 1 台かつ南北校舎間で繋がっていない(緊急時の連絡体制の不安)。
- トイレ環境: 洋式トイレやウォシュレットの増設。男子トイレの設備改修。
- その他安全面防災備蓄品が 1 階と 2 階に分散しているため、集約管理が必要。
- プールが遠く移動時の安全確保が必要。ビオトープへの転落防止柵設置。

【テーマ 2】:教員の働き方改革について

○教員の実態報告(モデルケース:N 教諭の 1 日)

学校側より、若手教員(N 教諭・27 歳)の勤務実態(時間外労働が月 60 時間超、給食は 10 分で平らげ、昼休みも生徒指導で潰れ休憩・トイレも行けない過酷な状況)が提示された。

○人員確保と支援ボランティア・人材活用

- 見守り・昼休みの支援: 昼休みや町探検の見守りや付き添いを、保護者・地域ボランティアや教育インターン生が代替できないか。
- 休憩時間の確保と安全確保: 地域の方が昼休みに校庭で見守り・一緒に遊ぶことで、児童のトラブル(いじめや未然防止)や怪我が減り、結果的に教員の放課後の指導・連絡業務の削減に繋がる。

○業務効率化・ICT 活用・環境改善

- 共通マニュアルと統一化: 学校ごと・異動ごとのローカルルールを減らし、マニュアルや成績処理・面談手法、一斉休校連絡などを市全体で統一・電子化すべき。
- 学校間・内部の業務削減: リモート出張の推進、書類の簡素化、退勤時間の目標設定とタスクリスト化によるメリハリ。持ち帰り仕事の削減。

(2)懇談を受けて課題を精査し、解決策を探る

○意識改革と情報発信

- 教員の「休む権利」とプロ意識: 教員自身が真面目すぎて「休憩を取る」「トイレに行く」ことを遠慮しがち。「今から休憩です」と堂々と言える体制やタイムスケジュールの導入が必要。
- 勤務実態の公開と意識共有: N 教諭の「1 日のスケジュール」のような実態を保護者や地域へ情報公開し、「何でも学校に頼る」意識を変えてもらう(社会的な理解促進)。
- 教職の魅力発信: 「先生になりたい」と思える未来を作るためにも、国や市レベルでの抜本的な定員増員と環境改善が急務である。
- 給食配膳の工夫として、ランチルームのような広いスペースでの一括給食提供なども工夫案として提案。

○有償ボランティア・専門人材の導入:「完全無償ボランティア」では責任の所在が曖昧になり断りづらい面もあるため、有償のサポーター、校務アシスタント、ICT 支援員、教員 OB などの専門人材を導入し、看護師の交代勤務のように確実に任せられる体制(チーム担任制・シェアリング)を作るべき。

- ボランティアのハードルを下げる(「支援の支援」):
「教える」ではなく「怪我がないか見守るだけ」など、10 分～1 時間単位で気軽に参加できる「見守りアシスタント」枠を設けると参加者が増えやすい。

○行政からの助言（市教育委員会 学校地域連携課 山本氏）

- 法律上の位置づけ： 今年度より学校運営協議会で「教員の働き方改革」を議題にし、評価することが義務化された。協議会としてどんどん声を上げてほしい。
- 地域と学校の接点： ボランティアの募集枠を「見守るだけ」などフレキシブルに緩め、子どもを介した情報発信を行うことで、保護者や地域の巻き込みが進む。
- 地域の温かさの活用： 本地域の温かい協力体制は大きな武器である。無理のない範囲で地域・行政・学校が一体となって環境改善を図っていただきたい。

12 連絡事項

第3回目は2026年10月19日（月）午前9時から開催する旨の報告があった。

また、参観会・豊西発表会の案内があった。